

第1節 中世城館跡一覧表

城館の配列は、「鹿児島県市町村別遺跡地名表」に使用されている配列に従った。また、各項目の記述方法については、「鹿児島県の中世城館跡」の例言を参照し、城館の名称は、混乱を避けるために統一した。但し、項目の記述内容については、今回の調査結果により新たに確認された事実を踏まえ、若干の変更を加えた。

なお、項目の「文献」にある各数字は文献番号を表し、本章末尾に文献一覧表を掲載した。

中世城館跡一覧表 1

番号 項目	53-1	53-2	53-3	53-4	53-5
名 称	岩剣城	下城	城瀬城	新城	諏訪城
所 在 地	平松字下山ノ口	北山字下城	平松字城瀬	三拾町字新城	平松字城ケ宇都
立 地	山頂, 尾根	丘陵頂上部	山麓, 河岸段丘	山頂	山頂
現 況	山林	山林	山林	山林	山林
規模	400×100	300×150	不明	300×200	80×330
・ 形状	複	複	複	複	複
残 存 度	やや良	やや良	不良	やや良	やや良
存続期間	~天文23年	南北朝 ~文禄2年		明応4年 ~弘治元年	享徳3年 ~文明18年
築 城 者	渋谷氏	平山氏		辺川氏	島津氏
在 城 者	渋谷氏 島津氏	平山氏 梅北氏		辺川氏, 伊地知氏 祁答院氏, 鎌田氏	島津氏
文 献	1			1, 2	1
地 名	下山ノ口	下城	城瀬	三拾町	城ケ宇都
遺 構	曲輪, 腰曲輪, 堀, 石垣, 礎石	曲輪, 土塁, 空 堀	堀, 土塁 旧道	曲輪, 竪堀, 空 堀, 土塁, 土橋	曲輪, 土塁, 空 堀
備 考	(別) 剣の平 剣の峯, 剣の岡	県道拡幅工事に より一部破壊	河川の浸蝕によ り消滅か	(別) 帖佐新城	(別) 宇都城

中世城館跡一覽表 2

項目 \ 番号	53-6	53-7	53-8	53-9	53-10
名 称	惣陣鹿倉山	高城	建昌城	山田城	中甌城
所 在 地	平松字平田	住吉字上・下高城	西餅田字建昌城 他	上名字中ノ城	北山字中甌他
立 地	山頂	山頂, 尾根	山頂	山頂	山頂
現 況	山林	山林	山林	山林	山林
規模 ・ 形状	150×300 複	400×120 複	600×400 複	300×200 複	100×150 複
残 存 度	不良	やや良	やや良	やや良	不良
存続期間	~天文23年	南北朝~	享徳3年 ~文明18年	~大永7年	弘治3年 ~文禄2年
築 城 者	高津氏	平山氏	島津氏	川越氏	平山氏
在 城 者		平山氏	島津氏	梅北氏, 川越氏 村田氏	平山氏
文 献	1	4	1, 3, 4	1, 2	
地 名	平田	高城	建昌城	城	中甌, 大丸
遺 構	曲輪	曲輪, 土塁, 空堀	曲輪, 腰曲輪, 土塁, 搦手口, 大手口, 空堀	曲輪, 空堀, 礎石, 竪堀, 土塁, 切通	曲輪, 井戸
備 考		県道拡幅工事に より大手一部破 壊	(別) 瓜生野城 育雛所建設の為 西側約3割破壊 S63~H2発掘	(別) 王城山 為朝城 上名中城	(別) 古城 北山大丸城 甌ドン屋敷跡

中世城館跡一覧表 3

項目	53-11	53-12	53-13	53-14	53-15
名 称	古城	中城	萩峯城	日當比良	平松城
所 在 地	中津野字山中	北山字二の瀬戸	西餅田字拾石迫	平松字山ノ口	平松字上星原
立 地	山頂	山頂	山頂	山麓	山麓
現 況	山林	山林	山林	山林	重富小学校
規模 ・ 形状	150×140 複	260×100 複	200×150 複	不明	200×150 複
残 存 度	やや良	やや良	不良	消滅	やや良
存続期間	南北朝 ～享徳4年	弘治3年 ～文禄2年	正平12年～	～天文23年	～天文23年
築 城 者	平山氏	平山氏	畠山氏 野元氏	島津氏	島津氏
在 城 者	平山氏	平山氏 梅北氏	野元氏	島津氏	島津氏
文 献	1, 4		1, 4	1, 2	1, 2
地 名	瀬戸上, テイコ	二の瀬戸	拾石迫	山ノ口	上星原
遺 構	曲輪, 腰郭	曲輪, 土塁	曲輪, 堀	石塁	曲輪, 石塁, 井戸
備 考	道路新設工事により東部一部破壊	県道拡幅工事により一部破壊	(別) 榕大丸城 シラス採取のため北西部破壊		

中世城館跡一覧表 4

項目	番号 53-16	53-17	53-18	53-19	53-20
名称	狩集陣	為朝城	上脇城	平山城	茶臼城
所在地	平松字城瀬他	上名字城ノ平	木津志字城ノ口	鍋倉字本丸	西餅田字上場
立地	山頂, 尾根	山頂	山頂	山頂	丘陵
現況	山林	山林	山林	山林, 神社境内 他	消滅
規模・形状	不明	200×80 複	150×100 複	450×340 複	不明 複
残存度	不良	やや良	不良	やや良	不良
存続期間	~天文23年			弘治年中 ~文禄4年	南北朝時代~
築城者	島津氏			平山氏	平山氏
在城者	島津氏			平山氏	平山氏
文献	1			1, 4, 5	2
地名	城瀬, 山ノ口	城ノ平	上脇	本丸	上場
遺構			曲輪, 空堀	曲輪, 帶曲輪, 空堀, 虎口, 土 塁, 大手口, 搦 手口	
備考		(別) 内山田城 お諏訪山		(別) 平安城 南部は桜公園工 事のため破壊	(別) 餅田城 上場城 団地造成工事に より破壊

城内の地番を町務課作成の地籍集成図（縮尺1/2000）を使って一覧表を作成した。そして、町務課所蔵の土地台帳を閲覧し、土地所有者名・地番・面積の確認を行った。また、城跡予想区域内の小字界図は、地籍集成図を使って作成し、町都市計画図へ転写した。この作業によって得られた図面を基に現地調査へ入った。

現地調査に際しては、先ず下見を行い、城跡予想範囲を確認した。山城跡の多くは、現在杉・松の植林か又は雑木林におおわれており、耕作中の畑は皆無であった。このように見通しのきかない測量困難な城跡では、土地所有者の承諾を得て作業員によるヤブ払いを実施した。ヤブ払いは、岩蔵城跡、平山城跡、萩城跡、新城跡、高尾城跡、高城跡、下城跡において実施した。これら山城跡の所有者の方々には、文化財調査に御理解・御協力をいただき、深く感謝を申し上げます。その他の山城跡においては、所有者の承諾を得て、測量に支障のある最小限の範囲において、調査員が草払いを行った。

現地測量は平板測量により、調査員1名と測量補助員2名により実施した。グリッド設定は植林に遮られて困難であった。縮尺は山城跡の規模に応じて、1/500又は1/250を採用した。用紙は1ミリ方眼紙を使用した。今後は雨天時に備えて防水加工したものが望ましいと考えられる。用紙の大きさは、城跡予想範囲よりやや広めにとり、できるだけ一枚に収まるようにした。調査方法の詳細については、「城館調査ハンドブック」が大変参考となった^①。

現地調査では、最初に城跡のおおよその範囲を確認し、その後平板測量に入る。はじめに最頂部の曲輪に任意のポイントを設け、現地にはピンポールを立てた。平板を他の曲輪へターニングする度に新たなピンポールを立て、測量が終了するまでそのままとした。測量困難な深い空堀や高い切岸では、レンジングを用いた。

今回の測量では、極力現地地形から観察される曲輪・土塁・空堀・虎口などを図ることとし、推測による曲輪の外廓線の復元は行わなかった。従って、今回の現地測量によって得られた図面は、山城跡の残存する遺構を含めた現時点における現況図であり、築城時の姿を正確に示す縄張り図とは、異なることをここで断りしておきたい。このため第4章に掲載した現地測量図は、山城跡実測要図とした。特に、平成5年夏の鹿児島大風水害により、測量図化作業の終わった多くの山城跡において、各曲輪の法面崩壊が見られ、測量時点の姿さえもとどめてはいないという事実を考慮したからである。恐らく築城以来数百年間に起こったであろう多くの自然災害により、その姿は変貌していると予想される。また、もう一つの理由は、今回の調査では各城館跡の主要部を中心とした調査しか実施できなかったためであり、城域が多くの山城において拡大する可能性を秘めている。将来ひとつ一つの城館跡における調査が実施された際に、縄張り図の復元は試みたいと考えている。

最後に、今回の調査は山城跡の現地実測が中心となり、麓にあったであろう館や集落の歴史地理学的観点からの調査が十分できなかったことをお詫びしておきたい。しかしながら、今後の城館跡研究の資料として、周辺地形図の中に小字界及び小字名の表記だけは試してみた^②。各研究者諸氏の御参考になれば幸いである。

註①「城館調査ハンドブック」1993年 新人物往来社P147

②小字界は昭和63年給良町務課作成の「地籍集成図」を使用した。界線は移動している可能性がある。

53-23	53-24	53-25
佐館	北山城ケ段城	上名楠ケ丸城
倉字垂ノ内	北山字城ケ段	上名字楠ケ丸
地	丘陵	丘陵
地, 神社境内	山林, 畠	山林
50×60 単	不明	不明
や良	やや良	やや良
祿4年 ~慶長11年	南北朝 ~戦国末期	南北朝 ~戦国末期
津氏		

在城者			津氏		
文献	1, 2	1, 2	4, 5		
地名	山ノ口, 下山ノ口	瀧ノ宇都, 尾崎, 平田	宇都	城ケ段	楠ケ丸
遺構	曲輪, 堀		大手口, 石垣 石段, 井戸		
備考			(別) 御屋地		

中世城館跡一覧表 6

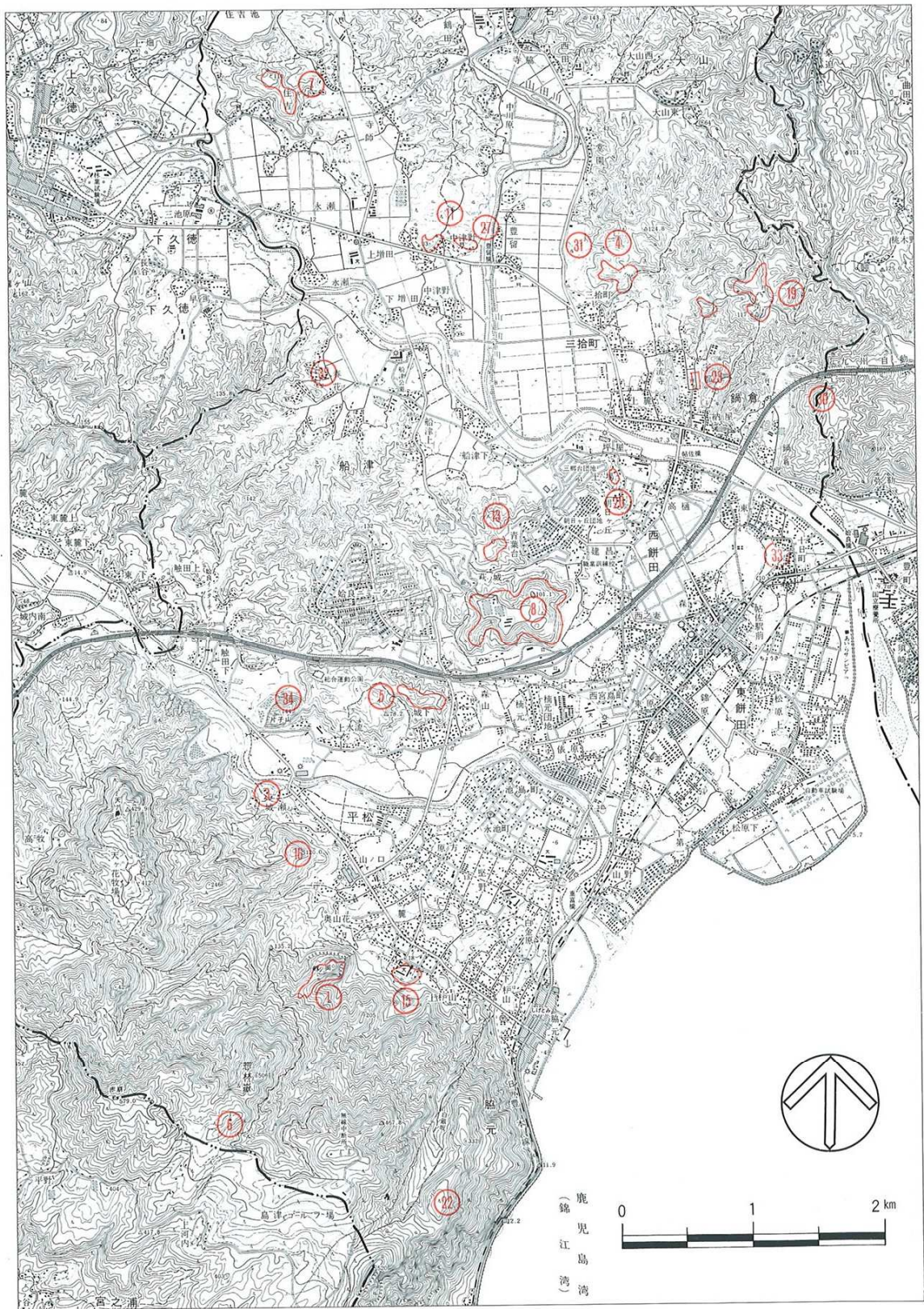
項目	番号 53-26	53-27	53-28	53-29	53-30
名 称	陽春院城	中城	大山城	下名陣ノ尾城	鍋倉柳丸塁
所 在 地	上名小字陽春院跡	中津野字中城他	上名字柳丸他	下名字陣ノ尾	鍋倉字柳丸
立 地	丘陵	丘陵	丘陵	丘陵	丘陵
現 況	山林, 宅地	山林, 宅地, 神社境内他	山林	山林	山林
規模・形状	不明	200×70 複	不明	150×100 複	不明
残存度	やや良	やや良	不明	やや良	不良
存続期間	戦国中期 ～戦国末期	南北朝 ～戦国末期	南北朝 ～戦国末期	戦国中期 ～戦国末期	南北朝 ～戦国中期
築城者		平山氏(?)			平山氏
在城者					
文 献					
地 名	陽春院跡	中城, 瀬戸上	柳丸, 大丸, 高曾, 百田	陣ノ尾	柳丸
遺 構					
備 考		中津野古城の一角 ? 老神神社境内	(別) 上名柳丸城		

中世城館跡一覧表 7

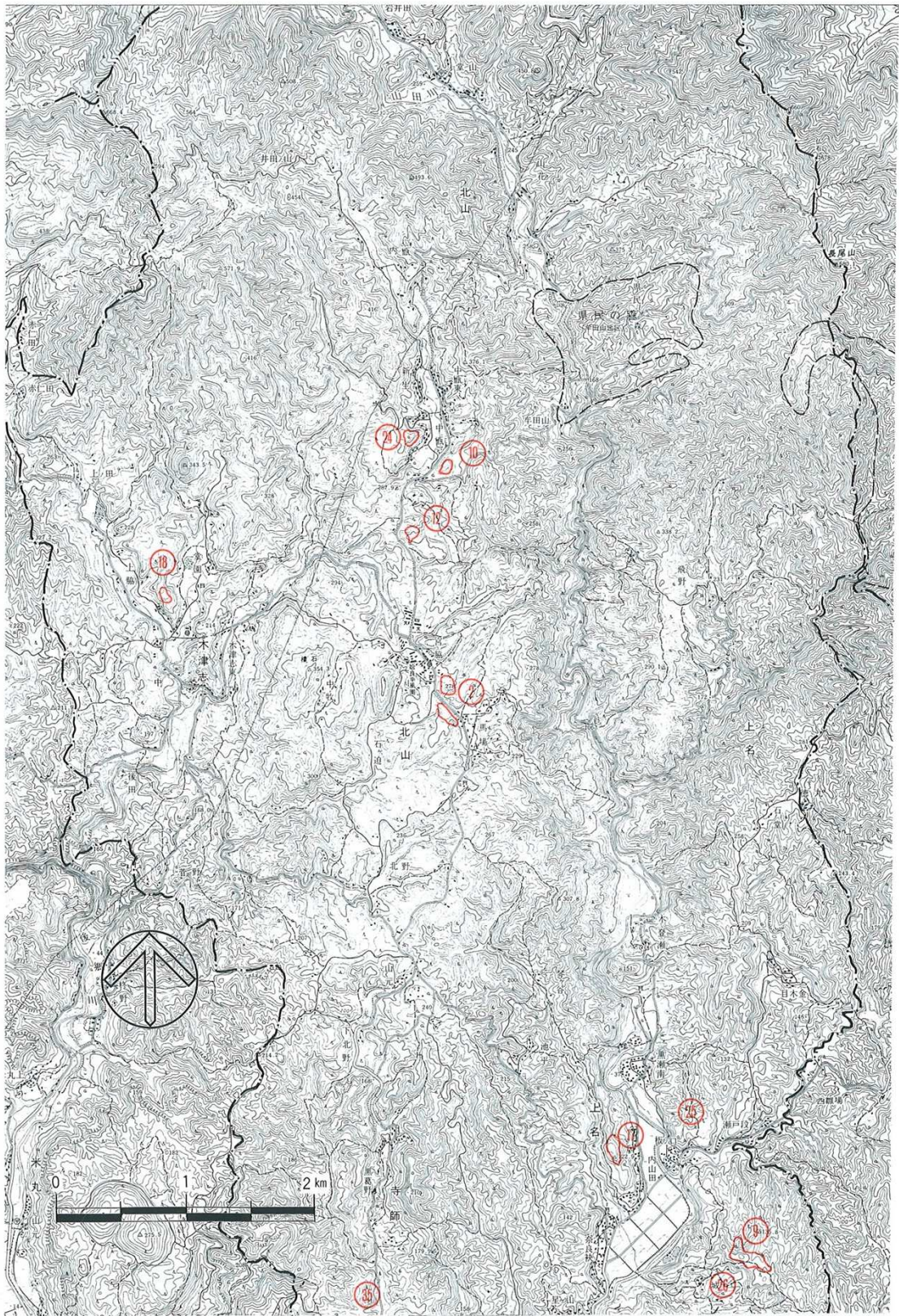
番号 項目	53-31	53-32	53-33	53-34	53-35
名 称	三十町陣ノ尾	井手丸壘	餅田中ノ丸	平松山ノ丸壘	寺師柳丸城
所 在 地	三十町字陣ノ尾	春花字井手丸	東餅田字中ノ丸	平松字山ノ丸	寺師字柳丸
立 地	丘陵	丘陵	小台地	丘陵	丘陵
現 況	山林	山林	宅地	山林	山林, 宅地
規模 ・ 形 状	150×100 複	不明	不明	不明	不明
残 存 度	やや良	不明	消滅	不良	やや良
存続期間	大永元年 ～大永7年	天正3年～	鎌倉中期 ～戦国	～戦国末期	南北朝 ～戦国
築 城 者	川上氏	敷根氏	平山氏	大隅氏	
在 城 者		敷根氏	平山氏		
文 献					
地 名	陣ノ尾	井手丸	中ノ丸	山ノ丸	柳丸
遺 構					
備 考	新城の一部か			(別) 片子岳	

*文献一覧 1. 三国名勝図会 2. 薩隅日地理纂考 3. 帖佐来歴 4. 帖佐由来記
5. 帖佐古記録

第2節 中世城館跡分布図



第3図 中世城館跡・分布図1 (始良町南部)



第4図 中世城館跡・分布図2 (始良町北部)